

いじめの問題に関する児童生徒の実態把握に係る調査の概要と考察

滝川市教育委員会教育支援課

①調査の趣旨

いじめの実態や児童生徒のいじめに対する考え方等を把握し、今後のいじめの未然防止、早期発見、早期対応等の指導に役立てる。

②調査方法

- ・ 道教委調査「いじめの把握のためのアンケート調査」に基づく実態調査
- ・ 保護者宛の文書を同封して家庭に持ち帰って記入
- ・ 氏名の任意記入欄を設定
- ・ 回収と開封及び集計を各学校で実施

③実施月・参加対象

平成26年 6月 市内小・中・高等学校児童生徒 ※高等学校分については別途整理集計

④回収結果

	平成26年 6月					平成25年度		平成24年度		平成23年度	
	在籍者数	回収者数	氏名記入者数	回収率	氏名記入率	11月回収率	6月回収率	11月回収率	5月回収率	11月回収率	5月回収率
全小学校	1911人	1737人	1708人	90.9%	89.4%	91.3%	89.2%	90.0%	91.3%	86.1%	89.8%
全中学校	1054人	920人	901人	87.3%	85.5%	93.3%	85.1%	94.0%	90.1%	96.1%	87.2%
合計	2965人	2657	2609人	89.6%	88.0%	92.0%	87.7%	91.4%	90.9%	89.6%	88.9%

⑤アンケート結果

Q. あなたは、今もいじめられていますか。

	平成26年6月		平成25年11月		平成25年6月		平成24年11月		平成24年5月		平成23年11月		平成23年5月	
	今もいじめられている	率	今もいじめられている	率	いじめられている	率	いじめられている	率	いじめられている	率	いじめられている	率	いじめられている	率
小1年生	15人	5.2%	17人	5.7%	14人	4.7%	22人	8.2%	20人	7.5%	24人	8.2%	13人	4.5%
小2年生	20人	6.7%	11人	4.2%	13人	4.9%	22人	7.6%	24人	8.3%	23人	7.6%	21人	6.6%
小3年生	8人	2.9%	19人	6.6%	22人	8.1%	21人	7.0%	17人	5.6%	14人	4.9%	13人	4.3%
小4年生	14人	4.9%	17人	5.6%	9人	3.1%	9人	2.9%	12人	3.9%	14人	4.7%	11人	3.5%
小5年生	7人	2.4%	13人	4.4%	16人	5.4%	8人	2.7%	10人	3.1%	12人	3.6%	5人	1.5%
小6年生	6人	2.0%	7人	2.2%	10人	3.3%	10人	3.0%	5人	1.5%	9人	3.0%	6人	1.9%
中1年生	4人	1.2%	3人	0.9%	4人	1.3%	3人	0.9%	5人	1.4%	8人	2.2%	7人	2.1%
中2年生	3人	1.0%	1人	0.3%	3人	0.3%	2人	0.6%	4人	1.2%	2人	0.6%	11人	3.4%
中3年生	2人	0.8%	0人	0.0%	3人	1.0%	1人	0.3%	4人	1.4%	1人	0.3%	1人	0.3%
計	79人	3.0%	88人	3.2%	94人	3.6%	98人	3.7%	101人	3.6%	107人	3.7%	88人	3.1%

【考察】

児童生徒が「今もいじめられている」と回答している人数が初めて80名を切った。各学年の経年変化を見ていくと、減少傾向の学年は小3～中1、低率横ばい傾向の学年は中2～中3であった。それに対して、現小学2年生は低率ではあるが小1からやや増加傾向が見られる。各学校は、「4月から現在までいじめられたことがある」「今もいじめられている」と回答した児童生徒を中心に個々の実態を把握・精査し解決が図られている。対応の結果、いじめの認知に値する事案としての件数は0件であった。しかし、軽度として扱われている人間関係のトラブルが固定化されないように、更にはいじめに発展しないように、指導後も人間関係改善・いじめ未然防止の方策に力を注ぐ必要がある。

Q. あなたは、今年の4月から今日まで、友人がいじめられているのを見たり、聞いたりしたことがありますか。

	平成26年6月		平成25年11月		平成25年6月		平成24年11月		平成24年5月		平成23年11月		平成23年5月	
	ある	率	ある	率	ある	率	ある	率	ある	率	ある	率	ある	率
小1年生	66人	23%	91人	30%	61人	20%	85人	32%	64人	24%	79人	27%	53人	18%
小2年生	78人	26%	62人	24%	49人	19%	75人	26%	91人	31%	65人	21%	60人	19%
小3年生	33人	12%	65人	23%	54人	20%	61人	20%	44人	14%	60人	21%	50人	16%
小4年生	47人	16%	55人	18%	46人	16%	39人	13%	54人	18%	56人	19%	37人	12%
小5年生	49人	17%	52人	18%	40人	13%	49人	16%	37人	12%	75人	23%	28人	8%
小6年生	22人	7%	40人	12%	32人	11%	82人	25%	55人	16%	59人	20%	43人	14%
中1年生	16人	5%	44人	13%	18人	6%	42人	12%	31人	9%	96人	27%	34人	10%
中2年生	32人	10%	23人	7%	26人	9%	85人	24%	39人	11%	53人	15%	52人	16%
中3年生	12人	5%	30人	8%	18人	6%	31人	9%	38人	13%	38人	10%	39人	12%
計	355人	13%	462人	13%	344人	13%	549人	19%	453人	16%	581人	20%	396人	14%

【考察】

各学年の5月同士(平成25・26年については6月)の経年変化を見ていくと、小2から小3、小6から中1の率が減少傾向にあるのは、クラス替えに伴うものであると考えられるが、現小4、現小6と中3は持ち上がりの学年にもかかわらず、減少傾向を示し、現小2は持ち上がりにもかかわらず微増にとどまっていることは良い傾向であるといえる。しかし、現中2はクラス替えがあったにもかかわらず減少していない。各学校は、今回の「子どもの目から見た」いじめの実態について把握・精査し、その結果を校内で共通理解し学級指導にもフィードバックしている。しかし、事後対応に追われることにならないためにも、例えば、子ども同士のコミュニケーションスキルを測定し改善を図るツール「ほっと」を活用したり、道徳の時間を基軸とした道徳教育の充実を図るなど、未然防止につながる取組が必要である。